

Ureterocele prolapse eliciting unusual patient behavior to control intermittent voiding

西尾 英紀（名古屋市立大学大学院医学研究科 小児泌尿器科学分野）

この度は、大変栄誉ある優秀論文賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

本論文は、男児の排尿時の尿線途絶が腹部超音波検査で疑った尿管瘤による尿排出症状であることを排尿時膀胱尿道造影（VCUG）で証明し、根治術により良好な排尿を得ることができたという症例報告でした。

十分にコミュニケーションがとれない小児の診察において、排尿についての問診が困難であることが多々あります。さらに排尿に関する先天性疾患であれば、自覚症状に乏しいため排尿症状に気づかない場合も少なくありません。尿管瘤の多くは胎児期の超音波検査による水腎水尿管症で発見され、出生後の発見の契機は尿路感染症が多いとされます。すなわち、水腎症を認めず、尿路感染症も起こさず、尿管瘤の脱出のみを認める本症例は極めて稀です。

私たちの知る限りで、本論文は VCUG で尿管瘤が膀胱頸部に脱出し、尿線が途絶した所見を示した初めての報告と思われます。目の前の患者さんへ最善の治療を行うのみならず、「多分、そうなのだろう」と想像されることを科学的に証明し、今後も報告して参りたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。